（1）主題名　礼儀の意義　〔中学校　２－（1)〕
（2）ねらい　礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動がとれるような態度を養う。
（3）資料名　「いただきます」　　（出典：３自分をのばす　暁教育図書　）
「礼儀って何だろう？」（出典：１自分を見つめる　暁教育図書
「サトウサンペイ『フジ三太郎』より」）

資料の概要
資料「いただきます」では，日本独特の食事のあいさつについて，筆者が体験した三つの場面を通して，その考え方を述べたものである。食事をするときのあいさつの言葉を考えさせるとともに，広くあいさつ全般について目を向けさせて，礼儀について日常生活と結びつけて考えさせていきたい。また，資料「礼儀って何だろう？」は，形だけのあいさつはおかしいことに気付かせたい作品である。

（4）学習指導過程

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1　場面を設定し，実演する。	○山にピクニックに来た時，一人で食事する場を思い浮かべ，弁当を食べる前の動作を想像しよう。 ・一瞬とまどいを感じる ○食事をする前に「いただきます」というのはなぜだろう。 ・習慣　　・感謝の気持ち	○弁当箱とはしを準備し，代表者数名に実演させる。 ○「いただきます」の言葉から，あいさつを自らの問題として考えさせる。
展開	2　資料を読んで，あいさつについて考える。 3　日常のあいさつについて考える。	○資料「いただきます」を読もう。 ・改めて「いただきます」を考えてみる ○蕎麦屋で向かい合った店員さんの「いただきます」という言葉を聞いて，妙にうれしかったのはなぜだろうか。 ・気持ちの良いあいさつだったから ・自分と同じように「いただきます」と言ったから ◎日本に滞在していた外国人が，「いただきます」をいい言葉だと感じたのはなぜだろうか。 ・外国にはない習慣だから ・食事をする時の感謝の言葉だから ・食事をする時の決まった言葉だから ○あいさつによって，さわやかな気持ちになったことはありませんか。 ・朝「おはよう」と言われると気持ちがいい ・「ありがとう」と言われてうれしかった ○あいさつをする時は，どんなことに気をつけたらいいだろうか。 ・相手の気持ちを考える　　・心を込める	○あいさつをする側からされる側の視点に立ち，人の心を和やかにさせる効用を明らかにする。 ○なぜ関心を持ったのかを考えさせながら，この言葉が感謝の表れであることにふれ，ねらいに迫る。 ○あいさつは思いやりの心の本質であることを理解させたい。 ○あいさつをしようとする意欲を喚起させる。
終末	4　「礼儀って何だろう？」について考え，礼儀についてまとめる。	○「礼儀って何だろう？」の４コマ漫画を見てどんなことを思いましたか。 ・形だけの礼儀になっている ○今日の学習を振り返って，「道徳ノート」に感想を書こう。 ・心を込めてあいさつをしていきたい	○礼儀の意義について考えさせる。 ○今後の生活に生かしていきたいことを考えさせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

資料「いただきます」では，日本独特の食事のあいさつについて，筆者が体験した三つの場面を通して，その考え方を述べたものである。食事をするときのあいさつの言葉を考えさせるとともに，広くあいさつ全般について目を向けさせて，礼儀について日常生活と結びつけて考えさせていきたい。そのために，終末に「礼儀って何だろう？」の４コマ漫画を提示し，形式的な礼儀ではなく，心のこもった礼儀の大切さを感じ取らせたい。

２　指導過程の工夫

導入で場面を設定し，一人で食事をするときの様子を実演することにより，黙って食べ始める生徒，「いただきます」と言葉にして食べ始める生徒，手を合わせてから食べ始める生徒，それぞれのパターンを出させ，興味付けを行った。その上で「いただきます」という資料を読み，外国人が「いただきます」をいい言葉だと感じたのはなぜかを考えながら，改めて「いただきます」が感謝の気持ちであることを理解させた。そして，日常のあいさつの意義について考えさせた。さらに，「礼儀って何だろう？」の４コマ漫画を見ながら，生徒たちの礼儀に対する意識を確かめた。

３　発問の工夫

「山にピクニックに来た時，一人で食事する場面を思い浮かべ，弁当を食べる前の動作を想像」し，実際に生徒自身に実演させることにより，授業への興味付けとした。また，自然に本教材に入れるように工夫した。そして，日本に滞在していた外国人が，『いただきます』をいい言葉だと感じたのはなぜか」という中心発問を考えながら，私たちの日常のあいさつについて考えを深めさせた。さらに，「礼儀って何だろう？」の４コマ漫画を見せて感想を出させることにより，虚礼ではなく心こもったあいさつの大切さを実感させた。

４　生徒の反応

場面を設定し，一人で弁当を食べるときの様子を実演させたのは，生徒それぞれの個性が出ていて，授業を盛り上げる効果があった。そして，生徒自身が発した「いただきます」という言葉から本教材に自然に入れることができた。また，４コマ漫画の提示では，「本当の礼儀正しさにはなっていない」とか「両親の考え方はおかしい」など様々な考え方の交流ができた。生徒の多くは２年生で学習した礼儀についてよく覚えており，「虚礼」という言葉がすぐに飛び交い，あいさつについて再度考えを深めることになった。

５　授業後のフォローアップ

日常生活の中でどれだけあいさつが実践できているか，朝や帰り，授業で，部活動で等，全教職員でしっかりと見ていく必要がある。また，地域の人々へのあいさつはどうか，町内から入ってくる情報にも耳を傾けたい。校内では，生徒会の生活委員会を中心にしっかりと取り組んでいきたい。

（豊栄中学校）